



カモのきょうだいクリとゴマ

なかがわちひろ作 アリス館^{かん}

うちにカルガモのたまごがやってきたのは、六月の大雨^{ろくがつ おおあめ}の日^ひでした。巣^すが流^{なが}されて、水^{みず}につかってしまったたまごを、子どもたちが持ち帰^{も かえ}ったのです。たまごは、ぜんぶで六^{むっ}つ。やがて、その中^{なか}から二羽^{にわ}のひなが生まれました。あまえんぼうでこわがりのクリ、くいしんぼうでのんびりやのゴマです。ひなたちは、無^ぶ事^じに育^{そだ}って自然^{しぜん}へもどれるのでしょうか。

野^や鳥^{ちよう}のカルガモを、卵^{たまご}から手探^{てさぐ}りで育^{そだ}てていく家族^{かぞく}の記録^{きろく}です。クリとゴマの成長^{せいちよう}していく様子^{ようす}が、愛^{あい}情^{じよう}たっぷりに描^{えが}かれています。

